



システムトレードの準備

目次

1-1. 口座開設と取引の方法.....	4
トレードをするためには口座開設から.....	4
◎ 口座開設に必要な書類とかかる時間	
◎ オススメの証券会社はこの3社	
証券会社に資金を入金する方法.....	5
◎ 入金後に目的の口座に資金を移動	
◎ 岡三オンライン証券の場合	
◎ SBI証券の場合	
◎ auカブコム証券の場合	
代表的な注文方法.....	8
◎ 成行	
◎ 指値・逆指値	
板の見方.....	10
先物取引について.....	11
◎ メリット	
1-2. 相場分析の基礎.....	15
相場を分析する2つの理由.....	15
◎ マーケットの地合を把握するため	
◎ 売買タイミングをはかるため	

ファンダメンタルズ分析..... 16

- ◎ 基本中の基本、リスクオン&リスクオフ
- ◎ 金融政策（中央銀行）
- ◎ 経済政策
- ◎ 投げ売りが連鎖するショック相場
- ◎ 地球の自転に合わせて市場の主役が入れ替わる

テクニカル分析..... 20

- ◎ チャート分析
- ◎ 市場間の相関
- ◎ 季節性の影響

相場をシンプルに仕分けするライン分析..... 22

- ◎ トレンドラインでトレンドを把握する
- ◎ トレンドの崩壊と反転、サイクル
- ◎ サポートラインとレジスタンスライン

1-1. 口座開設と取引の方法

トレードをするためには口座開設から

◎ 口座開設に必要な書類とかかる時間

KENSHIRO-225でシステムトレードをするためには、対応した証券会社の取引口座を用意する必要があります。KENSHIRO-225はあくまでシステムトレードのためのソフトであり、実際の売買は証券会社側で行われるからです。

SBI証券を例に、口座開設の流れを見ていきましょう。

●必要な書類

- ①個人番号が分かる書類
- ②本人であることが確認できる書類

上記2点が必要になります。マイナンバーカードがあれば、①と②をどちらも満たします。

マイナンバーカードがない場合でも、個人番号の通知カードは必要になります。どちらにせよマイナンバーは必要になりますので、この機会にカードを作るのも良いでしょう。SBI証券に限らず、国内のほぼ全ての証券会社やFX会社も、この仕組みで個人番号と本人の確認を行います。

●所要時間

口座開設自体はインターネット上ですぐ終わりますが、取引の開始は上記の本人確認が必須です。

マイナンバーカードか、個人番号の通知カード+運転免許があり、スマートフォンから手続きをした場合は、最短で翌日からトレードができます。

これ以外の方法だと、郵送による書類到着を待つ必要があるため、数営業日はかかってしまいます。

◎ オススメの証券会社はこの3社

KENSHIRO-225を使つてのシステムトレードでは、日経平均先物が取引できる口座を選択しましょう。

手数料が安く、外部連携サービスの自動売買(シグナルdeオーダー)と接続できるのは以下の3社となります。

[岡三オンライン証券](#)

auカブコム証券

[SBI証券](#)

証券会社に資金を入金する方法

◎ 入金後に目的の口座に資金を移動

証券会社に口座を開設後、場合によっては証券会社内で資金を移動する必要があります。日経平均先物を取引するなら、先物口座に資金を移動させなければいけない場合が多いです。

◎ 岡三オンライン証券の場合

岡三オンライン証券 OKASAN ONLINE SECURITIES

トップ 投資情報 取引 資産状況 **入金・振替** 口座情報

文字サイズ 小 中 大 ログアウト

動画で学ぶ Q&A サポート

未読:0件 全件

口座番号: 2021/08/12 03:19:11 現在

入金・振替

資金振替(先物OP口座へ振替)

1 入力 2 確認 3 受付 画面ヘルプ

指示可能金額 0円

振替予定日	2021/08/12(木)
振替指示金額	円
振替摘要	証券総合取引口座から先物・オプション取引口座へお振替

⚠ 営業日の15:20~16:15、日曜日4:00~7:00は振替指示をご利用できません。
⚠ ご依頼いただいた金額は、先物・オプション取引口座の証拠金余力に即時反映いたします。
⚠ 振替指示の訂正・取消はできません。

振替指示確認画面へ

トップ > 入金・振替 > 入金・振替 > 資金振替 > 先物OP口座へ振替

ページのトップへもどる

通常の入金は、まず証券総合取引口座へお金が入ります。日経平均先物なら先物・オプション取引口座への振替をする必要があります。

[入金・振替]→[資金振替]→[先物OP口座へ振替]で、先物口座に資金を送ることができます。

◎ SBI証券の場合

銘柄名・コード・キーワード 株価検索 サイト内検索

よくあるご質問 お問い合わせ サイトマップ

ポートフォリオ 取引 口座管理 **入金・振替** ログアウト

市場 国内株式 外国株式 海外ETF 投信 債券 FX 先物 オプション CFD eワラント 金・銀 プラチナ NISA つみたてNISA eCo 節税 定期 出金 銀行 保険

入金 出金 振替 入金・振替 操作履歴 入金・振替 操作履歴 入金・振替 操作履歴 入金・振替 操作履歴

2021-08-12 03:23:57

入金・振替

入金・振替

入金

出金

振替

入金・振替 操作履歴

入金・振替 操作履歴

外貨入出金

外貨入金

外貨出金

外貨入出金 操作履歴

振替指示

振替元	振替先
<input type="radio"/> 証券総合口座	先物・オプション取引口座(当日扱い)
<input checked="" type="radio"/> 証券総合口座	先物・オプション取引口座(翌営業日扱い)
<input type="radio"/> 先物・オプション取引口座	証券総合口座(当日扱い)
<input type="radio"/> 先物・オプション取引口座	証券総合口座(翌営業日扱い)

追加証拠金/不足金発生時はこちらを選択

指示可能額 0円

指示金額 円

取引パスワード

通常の入金は、まず証券総合口座へお金が入ります。日経平均先物なら先物・オプション取引口座への振替を、翌営業日扱いですする必要があります。

[入金・振替]→[資金]→[証券総合口座→先物・オプション取引口座(翌営業日扱い)]で、先物口座に資金を送ることができます。

◎ auカブコム証券の場合

すべてのひとに資産形成を。

au カブコム証券 A member of MUFG

銘柄 株価 株式買注文 新規建玉 文字のサイズ 小 中 大 サイトマップ Q&A ログアウト

マイページ お取引 資産管理 **入金・入出庫** 投資情報 NISA・つみたてNISA 設定・申込 サポート

入金・出金依頼 入金確認 振替依頼 入出庫

お預り金振替 現物株式振替 投資信託振替 特定→一般口座振替 貸株 代用貸株

お預り金振替

預り金振替指示 更新

預り金	保証金/証拠金 (引出可能額)	取引種別	振替指示	振替金額
0円	円	信用取引 受付・反映時間	<input type="radio"/> 預り金→保証金	<input type="text"/> 円
0円	円	先物・OP取引 受付・反映時間	<input checked="" type="radio"/> 預り金→証拠金	
			<input type="radio"/> 保証金→預り金	
			<input type="radio"/> 証拠金→預り金	

確認画面へ

Ponta auID登録△ ポイントのご利用にはauID登録が必要です。

新サービス 投資信託コミュニケーションサイト fundsquare

お客さまへのお知らせ 履歴

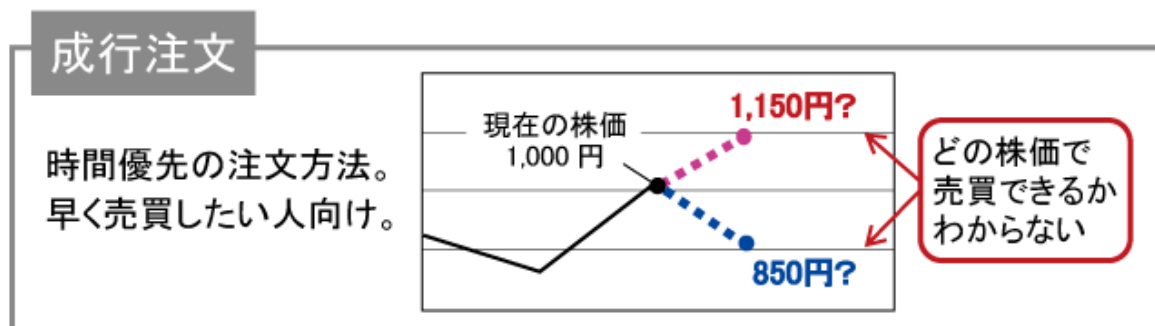
- 未読3件(重要0件)
- お取引関連通知
- ほかお知らせ

最初に預り金として入金されます。先物取引をする場合には、[入金・入出庫]→[振替依頼]→[お預り金振替]→[先物・OP取引 預り金→証拠金]とすることで、先物口座に資金を移動させることができます。

代表的な注文方法

◎ 成行

その場での注文成立を優先する注文方法のことで、いわゆるリアルタイムの注文となります。



価格を指定できないので、注文を出したときに表示されている価格で約定(注文成立のこと)しないこともあります。

また、相場の始まりのタイミング(=寄付)、相場が終わるタイミング(=引け)で、注文を出すこともできます。

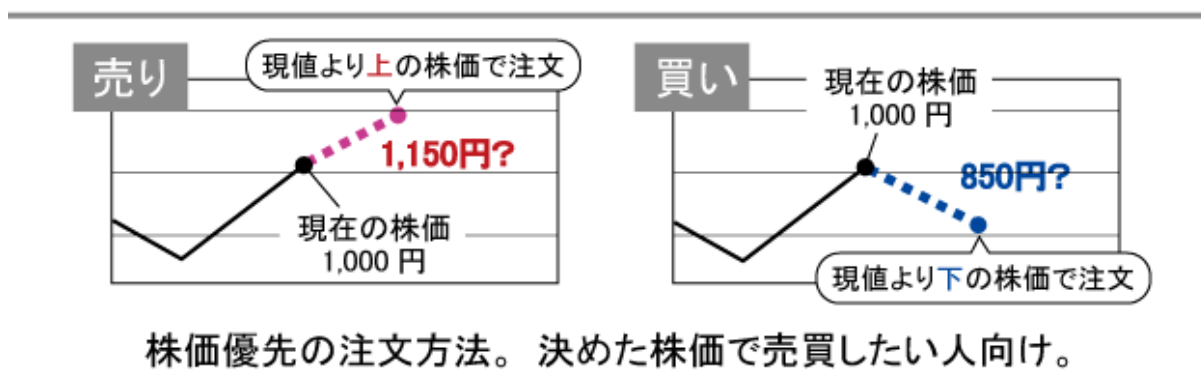
前者の寄成注文の場合、マーケットの開始時間に、そのときの価格で新規エントリー、あるいは決済がされます。後者の引成注文の場合、マーケットの終了時間に、そのときの価格で新規エントリー、あるいは決済がされます。

FXや仮想通貨のようにほとんど相場が止まらない商品では使うことはほぼありませんが、相場の始まりと終わりがはっきり決まっているETF、日経平均先物、個別株では寄成、引成はよく使われる注文となります。

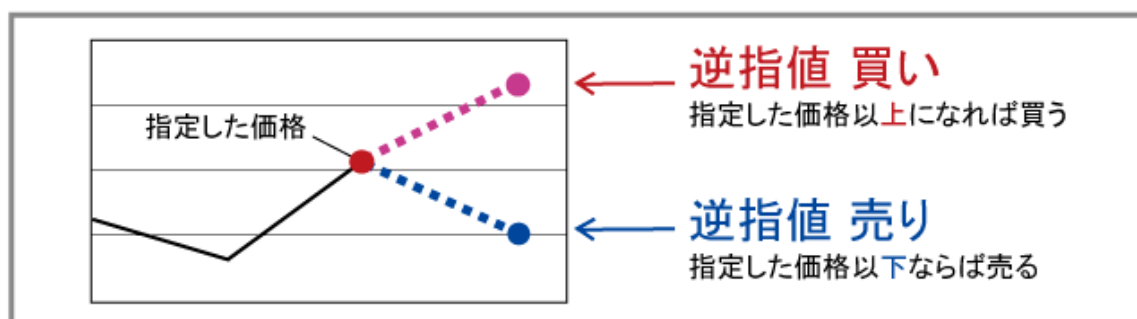
◎ 指値・逆指値

価格を指定しての予約注文となります。

<指値のイメージ>



<逆指値のイメージ>



指値と逆指値の違いを理解することがちょっと難しいので、以下のように覚えると良いでしょう。

▼指値: 投資家にとって都合の良い価格を指定する

新規エントリー → 今より下がったら買う(押し目買い)、今より上がったら売る(戻り売り)

決済 → 利益確定

▼逆指値: 投資家にとって都合の悪い価格を指定する

新規エントリー → 今より上がったら買う、今より下がったら売る(主にトレンドを追いかけるブレイクアウト)

決済 → 損切り

1つのポジションに対して、例えば利益確定と損切りを同時に出すことがあるため、指値と逆指値を違うものとして使い分ける必要があります。

板の見方

売	気配	買
9	49,200	
174	49,150	
4	49,100	
1	49,050	
9	49,000	
4	48,950	
2,146	48,900	
13,287	48,850	
13,332	48,800	
8,905	48,750	
	48,700	13,242
	48,650	13,747
	48,600	13,853
	48,550	767
	48,500	249
	48,450	209
	48,400	11
	48,350	2
	48,300	73
	48,250	1

ETF、個別株、日経平均先物などでは、板を見ての局面の判断や売買も有効です。

売気配は、価格ごとの売りたいロット数、買気配は価格ごとの買いたいロット数が表示され、常に変動しています。そして一番安く売りたい価格と、一番高く買いたい価格が、最新の価格ということになります。

この板を見ることで、目先の価格推移を推測でき、短期的な売買に役立てることもできます。

先物取引について

日経225先物取引とは、一言で言うと日経平均株価の先物取引です。

- 1) 日経平均株価を
- 2) 将来のあらかじめ定められた日（満期日）に
- 3) 現時点で取り決めた価格（日経225先物価格）で

売買することを約束する取引。つまり現在の先物価格で、決済日の日経平均株価を買う（又は売る）ことができます。

日経225の将来値を予測し、「上昇すると予測すれば買い（買建）、転売により決済」、「下落すると予測すれば売り（売建）、買戻しにより決済」することにより売買差益を狙う取引です。

◎ メリット

1) 銘柄選び不要、とにかくシンプル

日経225先物は日経225の指数の上下動というシンプルな取引ですので、日経225のチャートの動向だけに集中して取引することができます。

したがって、通常の株取引のように、市場に上場している無数の銘柄から、条件の良いものをその都度選ぶ労力は必要ありません。

2) 流動性が高く売買しやすい

日経225先物は、取引高も年々増加傾向にあり、参加者も非常に多いので、売り買いともに注文の成立が容易です。株式市場などで、流動性がない銘柄を売買する場合、現在の価格で買いたくても、その価格で売りたい相手がいないと、すぐに購入することが困難であったり、成行き注文を出す際、想定以上の高値で約定してしまうというケースも出てきます。

日経225先物市場のように、流動性が高い市場の場合、常に買い手売り手が存在しているので、このようなことは起こりません。

指数先物取引としては他に、日経300先物取引、TOPIX先物取引などがありますが、流動性の高さでは、日経225先物取引が群を抜いています。

また、日経225先物取引はシカゴ・マーカンタイル取引所（CME）や、シンガポール証券取引所に上場されているため、世界中の投資家が売買を行っており、高い流動性がある商品です。

個別銘柄ではマーケットインパクトの懸念がありましたが、日経225先物取引では殆ど気にする必要がないのが特徴です。

3) 倒産や上場廃止のリスクがない

日経225は指数であり会社ではない為、倒産や上場廃止などの心配がありません。通常の個別企業の株式のように、経営状態に伴う株価の不安定さに振り回されることはありません。

4) 少ない資金でも大きなチャレンジができる

日経225先物、および、日経225mini先物はレバレッジ取引ですので、株取引の信用取引と同様、実際の元手資金よりも大きな金額の取引が可能です。

株式の信用取引と違う点は、レバレッジの大きさです。

通常の株の現物取引の場合、140万円の取引をする為には140万円の自己資金が必要です。これに対し、信用取引の場合だと、必要な自己資金は、取引額の30～33%程ですから、約42万円の自己資金が必要となります。しかし、日経225mini先物取引の場合、必要な自己資金は5万円前後となります。（※2013年11月現在の水準）

先物取引では取引単位を“〇枚”と呼び、1枚を売買する為に必要な証拠金が決まっています。必要証拠金は変動性で、各証券会社によっても1枚当りの必要証拠金は若干異なります。例えば2013年11月現在の水準だと、日経225先物の場合は1枚あたり50万円前後、日経225mini先物の場合は5万円前後となります。

このように、日経225先物取引はレバレッジ取引であるため、少ない自己資金で大きな利益を目指すことが可能です。しかし、反対に自己資金以上の損失を抱えることもある、ハイリスクハイリターン取引とも言えます。したがって、資金管理を徹底した上で売買することは、非常に重要なことです。

システムトレードの場合は、過去のデータ結果をもって、リスクをある程度想定することができるため、事前にリスク管理をしっかりとした上で売買することが可能です。

資金管理を徹底すれば、レバレッジ取引だからといって、自己資金以上の損失を負う可能性はかなり軽減されます。

5) 金利や品貸料がいらず、手数料も安い

日経225先物はデリバティブ取引（派生商品取引）である為、株式の信用取引を行う時に発生する金利や品貸料が発生しません。

また、売買手数料もかなり安いのが特徴です。手数料の金額は、証券会社にもよりますが、2013年11月現在の水準だと、mini 1枚の手数料としては、片道39円～50円台、large 1枚では片道400円～500円台の水準です。したがって、短期売買を繰り返す場合、かなりの費用軽減が見込めます。

6) 売りエントリーができる

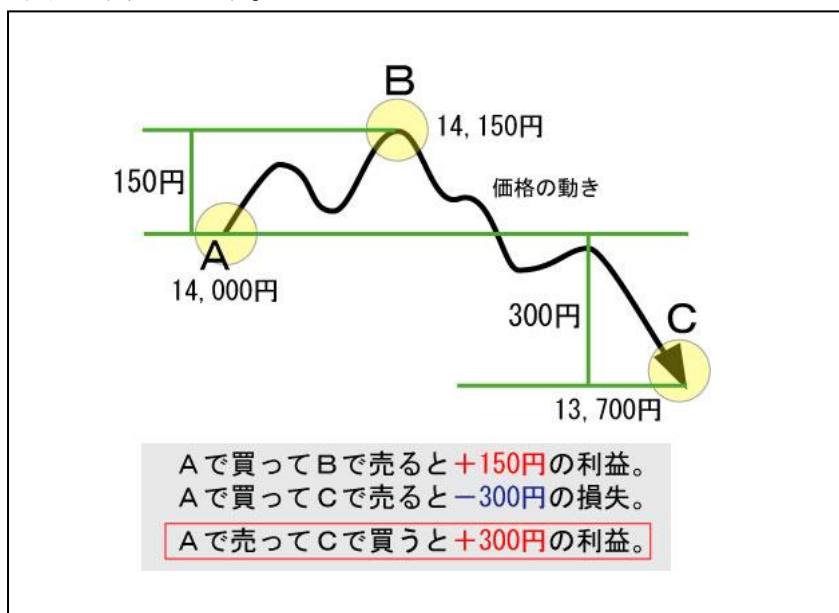
通常の現物株取引の場合、利益を出すためには、「安いところで買って、高くなったら売る」という方法しかありませんが、日経225先物取引では、「高いところで売って、安くなったら買い戻す」という方法で売買することも可能です。

例えば、図のように価格が14,000円（A）から一旦14,150円（B）まで上昇し、その後どんどん下がりして13,700円（C）まで落ち込んだとします。この場合、Aで買ってBで売れば150円の利益になりますが、そのまま売り損ねてCの時点での決済ということになると、300円の損失となってしまいます。

しかし、日経225先物取引では、Aの地点で、今後価格は下落するだろうと予測した場合、Aの時点で売りエントリーしておくことができます。すると、予測通りに下がった場合、Cで買い決済すれば300円の利益ということになります。

売りから注文が出せることに慣れていないと最初は混乱してしまうかもしれませんが、要するに、「買いから入る場合は価格が上がったら儲かる。」「売りから入る場合は、価格が下がったら儲かる。」といったように覚えておくと分かりやすいでしょう。

このように、買いだけでなく、売りで利益を出す方法も知っていると、下落局面の時にも利益が出せる可能性が出てきます。



7) 市場の取引時間が決まっているのでルールが作りやすい

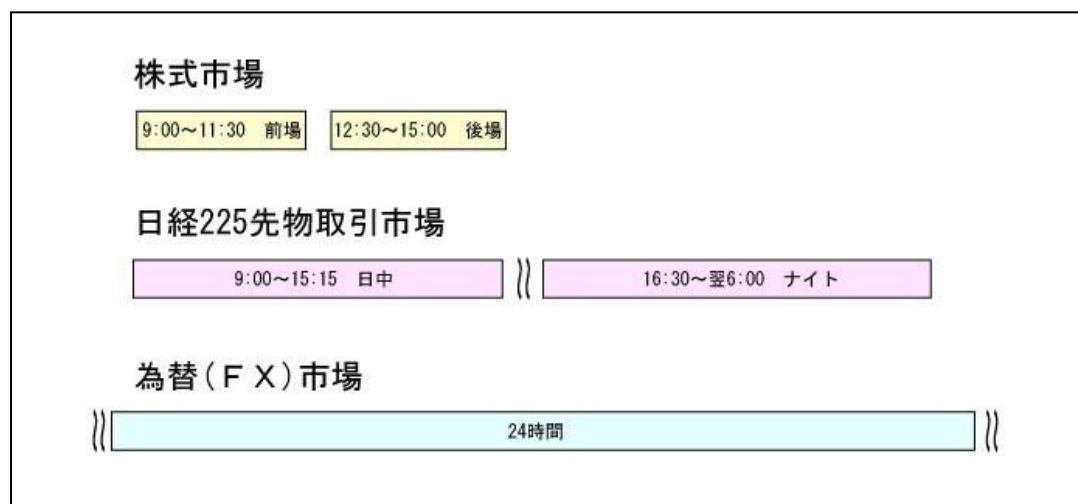
日経225先物取引市場は、株式市場と同じように取引時間が決まっているため、それぞれの市場で、始値、終値、高値、安値といった4本値があります。

システムトレードでは、「本日の始値で買って、本日の終値で売る」といったように、明確なルールが必要であるため、4本値があるということは、ルールが作りやすいというメリットになります。

FX市場の場合、24時間いつでも取引ができる為、日中仕事をしている人にとっては都合が良く人気が高い取引ですが、24時間開催しているということは、言い換えれば、「時間のくぎりがない」ということになります。

FXの日足（ひあし）データは、前日の終値＝本日の始値となるため、日経225先物市場のように、日中の終値から、ナイトの始値までのギャップを取るといったロジックは作れません。

また、FXは市場での売買ではなく、相対取引がメインとなる為、日経225先物取引のように、価格が統一されていないというのも、デメリットの一つになります。



1-2. 相場分析の基礎

相場を分析する2つの理由

◎ マーケットの地合を把握するため

適切な売買をするためには、まずそのときの相場がどういう状態であるか判断しないとけません。

上がっているのか、下がっているのか、横ばいなのか。また、上がっているにせよ、ファンダメンタルズ要因が絡んだ強力な上昇なのか、そういったものがない弱い上昇なのか。

こういった分類は人それぞれになりますが、どちらにせよそのときの相場の流れを見定めることで、それにマッチしたトレード手法を用いることができます。

◎ 売買タイミングをはかるため

マーケットの方向性が分かったら、できるだけ利益が出しやすいタイミングでエントリーをし、決済する必要があります。

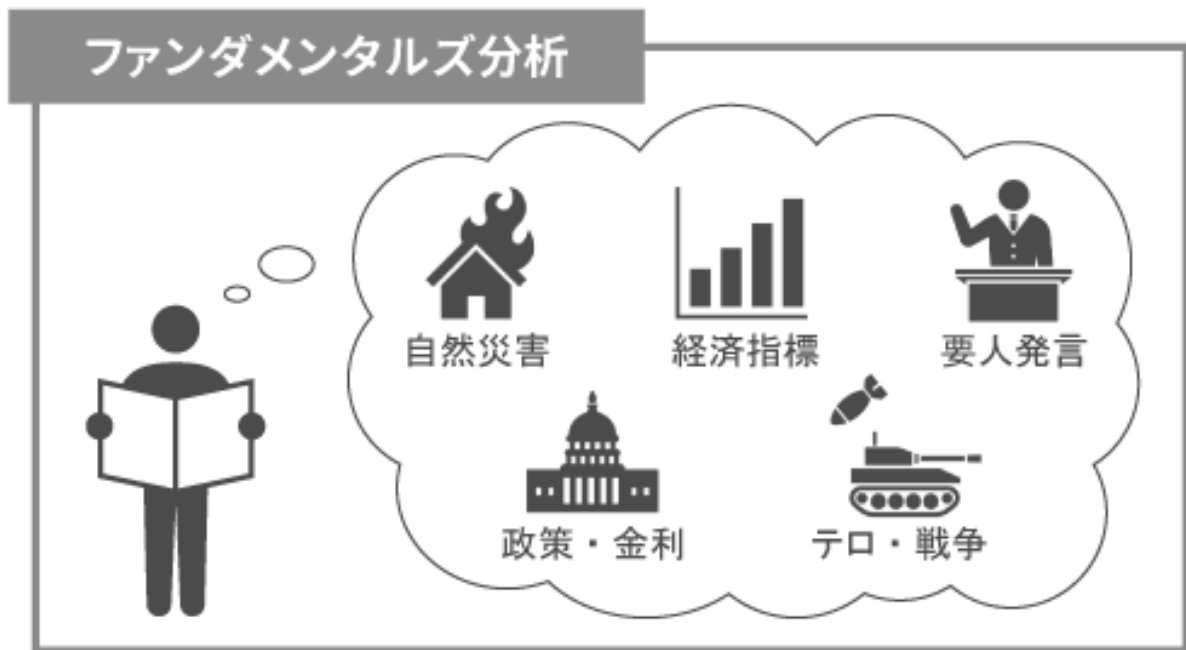
ざっくり分ければ、相場は上がっているか、下がっているか、どちらでもないかのどれかです。であれば、大まかな方向感を当てることはそんなに難しくありません。にもかかわらず、利益を出すことはそんなに簡単ではないのは、良いタイミングで売買ができていないからです。

①方向感を認識する

②適切なタイミングで売買する

この2つが揃って、初めて優位性のある売買になります。

ファンダメンタルズ分析



◎ 基本中の基本、リスクオン&リスクオフ

常にお金は世界中を移動しているという考え方が、ファンダメンタルズ分析の基礎となります。

世界経済が好況で投資ムードが盛り上がっていれば、成長が見込める株式や新興国の通貨が人気になって資金が流れ込みます。

逆に世界経済が不況で投資ムードが停滞していると、金や、日本円、スイスフランのような安全通貨に資金が逃げます。

前者をリスクオン、後者をリスクオフと呼び、世界の投資家がどれだけリスクを受け入れて投資するかという見方をします。

◎ 金融政策(中央銀行)

緩和

「金融緩和」という単語はよくニュースに出てきますが、簡単にいうと「お金をたくさん刷る」ことになり
ます。社会に流れるお金の循環量を増やして、経済を刺激する政策となります。

日本では2012年末に第二次安倍政権が発足し、アベノミクスと呼ばれる大規模な金融緩和が行われました。この結果、2013年11月時点では10000円を割り込んでいた日経平均は、015年6月には20000円台を回復。2年を待たずに株価は倍になりました。

引き締め

緩和とは逆に、景気の過熱やインフレを抑えるために実施されるもので、政策金利を引き上げたり、国が保有している国債などの資産を売却します。こうすることで、社会に流れるお金の量が減り、行き過ぎた景気が抑制されます。

◎ 経済政策

特殊な相場になりやすい選挙



こちらは2016年11月の米大統領選挙時の日経平均です。大方の予想を覆してドナルド・トランプ氏が大統領に当選。そこから年末に向かって、日経平均は強い上昇トレンドに入りました。



その4年後、ジョー・バイデン氏が米大統領選挙に勝利した2020年11月から翌年にかけての日経平均です。

このときも明確な上昇トレンドに入っています。米国の大統領選挙は世界的な影響度、注目度が高く、相場が動き出す起点になることがよくあります。

お金のばらまき

2020年前半に新型コロナウイルスが蔓延した結果、日本政府が全国民に一律で給付金を配りました。こういった、いわゆる「ばらまき政策」は、株高の要因になることが多いです。

お金が無条件でばらまかれることで、相対的に現金の価値が下がり、金融商品の価値が上昇することにつながるからです。実際、この給付金を元手に、初めて投資にチャレンジした方もいるでしょう。

増税・減税

税率は株価に大きな影響を与えます。日本では過去何度か消費税の引き上げが行われていますが、そこから消費が落ち込むサイクルに入り、日経平均が低迷するパターンが多く見られました。

逆に法人税を引き下げることによって、企業活動を刺激し、株価が上昇する効果も期待できます。

◎ 投げ売りが連鎖するショック相場

相場が大きく動くのは、市場参加者の損切りが相次ぐときです。

新規エントリーするタイミングは人それぞれでバラバラですが、決済は同じタイミングに偏りやすいです。

特に、損切りの逆指値注文がたくさん入っている価格帯に差し掛かると、決済が同時発生します。例えば、30000円まで下がったら損切りをしようとしている買いの保有者がたくさんいる状態で、30000円を割り込むことでほとんど同じタイミングで反対売買の売りが一斉に入ります。この結果、強い下降のトレンドが発生するというわけです。

このように相場を一気に動かすのは、逆指値注文の損切りが一斉に発動するタイミングであることが多いです。またこの動きは、暴騰時より暴落時に多く見られます。

多くの投資家が上昇の目線で買いポジションをたくさん保有しているとき、ひとたび損切りの連鎖が始まると売りが売りを呼び、暴落から逃げるための投げ売りが続く状態になります。



2020年3月の暴落はこの典型といえるでしょう。新型コロナウイルスの世界的な流行が表面化し、売りが売りを呼ぶ展開となりました。

◎ 地球の自転に合わせて市場の主役が入れ替わる

金融の市場は時間帯により参加者が入れ替わります。

日本時間の午前～夕方までは、東京市場を含むアジア圏の投資家が主体になり、売買が行われます。夕方以降に欧州、夜に米国の投資家が参加してきます。

参加者が入れ替わると、相場の傾向も変わりやすいため、値動きの偏りを生む原因になることもあります。

テクニカル分析

◎ チャート分析



チャートによる過去から現在まで続く値動きの推移を把握することは、テクニカル分析の王道といえます。

チャートでは、テクニカル指標を表示したり、ローソク足の値動きを基準にラインを引くことが多いです。上の写真のTradingViewや、証券会社に付属しているチャートソフトが使われます。

いろいろなテクニカル指標の種類

価格分析系

トレンド系	トレンドの有無	オシレーター系	価格・波動・値幅
<ul style="list-style-type: none">・ 移動平均線・ グランビルの法則・ 新値足・ ポイント&フィギュア・ パラボリック	<ul style="list-style-type: none">・ DMI・ MACD・ フォーメーション (パターン)	<ul style="list-style-type: none">・ RSI・ ストキャスティクス・ ボラティリティ・システム・ 移動平均線かい離率・ サイコロジカルライン	<ul style="list-style-type: none">・ サイクル分析・ 一目均衡表・ エリオット波動・ フィボナッチ

出来高分析系

出来高系

- ・ ボリュームレシオ
- ・ 逆ウオッチ曲線
- ・ 価格帯別売買代金

どちらにも属さない 市場全体の需給を分析

市場分析

- ・ 騰落レシオ
- ・ 信用評価損益率
- ・ 貸借倍率

また、テクニカル指標にはさまざまな種類があります。いろいろと試しながら自身が分析しやすいものを見つけ、手法の構築を目指しましょう。

◎ 市場間の相関

例えば、取引の対象が日経平均先物であっても、それ以外の金融商品の動向はチェックするべきです。特に米国の株価指数であるダウ平均株価の影響は大きく、日本の株式市場が動いていないナイトの時間帯は、ダウが値動きを先導することがよくあります。

◎ 季節性の影響

チャートや価格とは別に、ある特定の時期に買われやすい、売られやすい傾向があります。こういった傾向を、季節性、シーズナリーパターンと呼び、システムトレードにおいてかなり重視します。

季節性に何らかの根拠がある場合には、確度は上がります。例えば、3・6・9・12月の第3金曜日のナイトでは株価が下がりやすいですが、これは米国の複数の商品の決済期限が重なるため。根拠がある季節性の傾向は、売買に取り入れることで成績向上の期待があります。

相場をシンプルに仕分けするライン分析

◎トレンドラインでトレンドを把握する

上昇トレンド



高値と安値が切り上がっている状態が上昇トレンドです。安値同士を結んだトレンドラインが右上がりなら、上昇トレンドと判断できます。

下降トレンド



高値と安値が切り下がっている状態が下降トレンドです。高値同士を結んだトレンドラインが右下がりなら、下降トレンドと判断できます。

横ばい



高値同士、安値同士を結んだトレンドラインが引けないときは、トレンドが発生していない横ばいの相場です。

◎トレンドの崩壊と反転、サイクル

上昇トレンドの崩壊



トレンドラインを終値で下回ったら、上昇トレンドは終了です。

下降トレンドの崩壊



トレンドラインを終値で上回ったら、下降トレンドは終了です。

上昇トレンドの開始



下降トレンド終了後、直近高値を上抜けることで、上昇トレンド開始と見なします。

下降トレンドの開始



上昇トレンド終了後、直近安値を下に抜けることで、下降トレンド開始と見なします。

◎ サポートラインとレジスタンスライン



何度か価格を跳ね返している抵抗線のうち、上昇を阻むものを上値抵抗線(レジスタンスライン)、下降を阻むものを下値抵抗線(サポートライン)と呼びます。

これらをブレイク後にトレンド発生となるケースがあります。